

草加市立歴史民俗資料館

れきみんだより vol.15



社会科見学で千歯^{せんば}こきの使い方を学習する小学生

れきみん見学は草加の歴史を学ぶ第一歩 ～資料館見学の楽しさを伝えていくこと～

“れきみん”では、11月頃から市内小学3年生の社会科見学の受け入れが始まります。

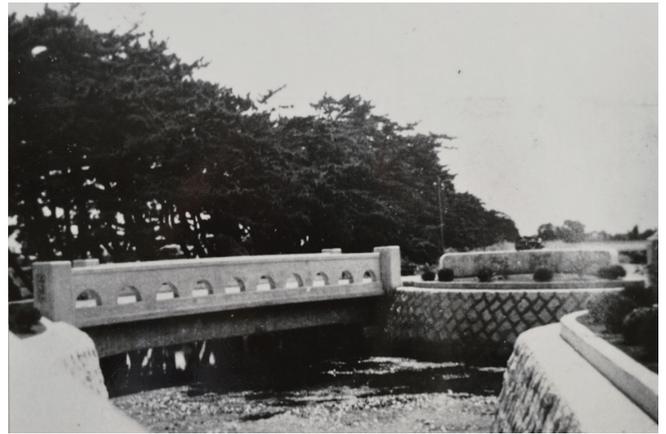
子どもたちは、展示されている資料を職員とともに観察し、一部の資料は直接触れて使ってみる体験を通して、現在と昔の道具の違いや暮らしにおける人々の知恵や工夫を学びます。市域の農家が長年使用してきた千歯^{せんば}こきや唐箕^{とうみ}といった農機具も、子どもたちの目には古くて新しい道具に映るようであり、先人の道具に込められた工夫に大変驚^{れいお}いています。

また、令和2年（2020）から完全実施された新しい学習指導要領では、小学3年生の社会の内容として、市や人々の生活の移り変わりを学習する

ことが盛り込まれました。そのため、各小学校周辺の60年前（市制施行^{しせいしこう}のころ）、開校時、現在の3枚の航空写真を紹介し、街並みの変化について考えてもらうなど、学習内容に応じた見学プランを用意しています。

資料館の醍醐味^{だいごみ}の一つは、展示されている資料を観察し、そこから何かを感じ取って、知的好奇心^{ふく}を膨らませてもらうことです。社会科見学でも、昔の暮らしや道具の学習を通して、資料館見学の楽しさを感じてもらうことを大切にしています。

草加の未来を担う子どもたちにとって、“れきみん”が草加の歴史に触れる第一歩であることを願い、職員も社会科見学^{のぞ}に臨んでいます。



昭和10（1935）年頃の三ツ橋

今回紹介する資料は、昭和16年（1941）に草加町が発行した『草加町町勢要覧』です。

町勢要覧とは、人口や地理的状况、産業、歴史・文化を分かりやすくまとめた冊子です。現在でも作成している自治体もあり、草加市では市勢要覧に代わって、『草加市統計書』『草加市統計データブック』『地域経営指針』などを発行しています。

さて、『草加町町勢要覧』は、縦15.0センチメートル、横21.0センチメートル、12ページにわたり、豊富な写真を添えて草加町の概況を紹介しています。

内容を見てみると、当時の人口は9,200人（男4,611人、女4,589人）と記されています。これは町村制が施行された明治22年（1889）の人口4,481人と比較して2倍強に増えています。就業人口の割合は、無業を除くと農業が1,742人と一番高く、次に工業が1,714人、商業が1,328人と続いています。工業に従事する人口が多いのは、大阪窯業株式会社を始めとする工場が多く稼働していたためと思われます。

町の大部分は田畑であり、漬菜（コマツナなどの菜葉類）やネギ、キャベツなどの野菜が多く生産されていた他、ユリなどの草花栽培も行われていました。この他、教育や衛生、交通、通信、町の財政、名所旧跡などが紹介されており、戦前の草加町に関する情報が詳しく記されています。

ところで、『草加町町勢要覧』の表紙には、親柱に「みつはし」と刻まれた橋と草加松原が描かれています。「みつはし」は「三ツ橋」と書き、同所を流れていた2本の用水路をまたぐように3基の橋が架けられたことに因みですが、草加松原の歴史を語る上で欠かせない橋でもあります。

昭和7年（1932）に始まった4号国道の改良工事は、谷塚村から草加町数馬橋（吉町一丁目）までの第一期工事を経て、翌年は数馬橋から草加松原北端までを対象とする第二期工事が始まりました。

しかしながら、草加松原付近では国道の両側にマツが植えられているため、十分な幅員を確保することができず、西側松並木の伐採案が計画されました。これに驚いた草加町の人々は、草加町保護会を結成し、保護を呼びかける活動を始めました。それが功を奏し、改修事務所は、草加松原西側を流れる佐藤落の対岸に、下り線用の道路を分離新設する方法に変更しました。草加松原北端の上下線合流地点には2本の用水路が交差していたため、その上に架橋されたのが「三ツ橋」です。

昭和時代初期に起こった草加松原の保護活動の産物である「三ツ橋」ですが、現在は欄干の一部が残るのみです。

内容もさることながら、表紙からも草加の歴史の一端をうかがい知ることができる資料です。

◆れきみん歳時記（令和4年6月～9月）◆

歴史民俗資料館で開催した講座やイベントなどの取組を紹介します

6月 地域の文化財を伝える



れきみん講座「草加宿に残された神酒みきわく杓」を開催しました。講師は元草加市文化財保護審議会委員の堀内仁之ほりうちひとゆきさん。大山阿夫利神社のお神酒を持ち帰るために用いられた神酒杓という珍しい資料の話に、参加された皆さんは興味津々でした。

8月 再開！そうか芭蕉塾！！



3年ぶりに連続講座「そうか芭蕉塾ぼしょう」を開催しました。今回は『おくのほそ道すかがわ』須賀川から瑞巖寺ずいがんの章段たにちよしかずを学習しました。講師の谷地快一たにちよしかずさん（元東洋大学文学部教授）の丁寧な説明で、参加された皆さんは大変満足の様子でした。

7月 地域をつなぐ連携展示



春日部市郷土資料館の声かけで、明治天皇の東北・北海道巡幸じゆんこうをテーマにした連携展示を開催しました。“れきみん”の他に八潮市・越谷市・杉戸町・久喜市・幸手市の博物館施設などが参加し、地域一体となった企画展が開催できました。

9月 実習生と準備したミニ企画



ミニ企画「重陽の節句展ちようよう せつく」を開催しました。今回は、8月に行った博物館実習の実習生にも展示運営してもらいました。展示資料の見せ方に注意しつつ、若い学生らしい斬新なアイデアも飛び出し、にぎやかな展示が出来上がりました。

◆企画展の次回予告

タイトル：桃の節句展

開催期間：令和5年2月5日（日）～3月5日（日）

明治・昭和・平成時代の雛飾りを始め、御殿飾りや源氏物語貝合わせなど、当館蔵のきらびやかな節句飾りを展示します。また、市民の方が制作されたつるし飾りも展示します。

厄を祓い、健やかな健康や長寿を願う節句行事の展示をお楽しみください。



昨年度の展示風景

◆れきみんブックレット配布しています

資料館では、草加の歴史・文化を多くの方に分かりやすく紹介するため、れきみんブックレットを発行しています。

最新号『草加松原のれきし』では、江戸時代から現代に至る草加松原の歴史に加え、草加松原内に設置されたモニュメントを紹介しています。

窓口で無料配布しています。ぜひ、ご覧ください。



草加市立歴史民俗資料館

facebook やってます！

皆さんに草加市の歴史や文化、資料館の活動を伝えたくて公式フェイスブックページを開設しています。様々な情報を発信してますので、ぜひ、ご覧ください！



草加市立歴史民俗資料館 🔍

市公式ホームページ内のSNSページ、または右の二次元コードからアクセスできます



【開館時間】 午前9時から午後4時30分まで

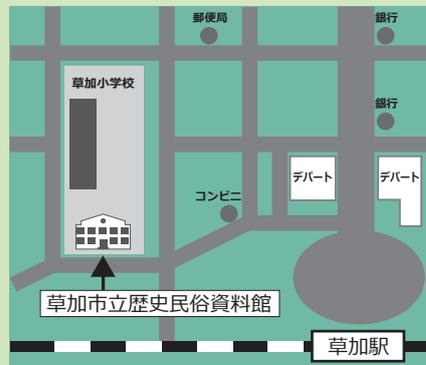
【休館日】 毎週月曜日（祝日または振替休日の場合は翌平日）
年末年始

【入館料】 無料

【住所】 〒340-0014 埼玉県草加市住吉一丁目11番29号

【問合せ先】 電話 048(922)0402 ファクス 048(922)1117

E-mail sokarekimin@city.soka.saitama.jp



東武スカイツリーライン「草加駅」下車東口徒歩7分
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

れきみんだより vol.15

発行日：令和4年（2022）12月20日 編集・発行：草加市立歴史民俗資料館